令和２年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部　最優秀賞
（国土交通大臣賞）

「　迷わず行動を　」

岡山県立岡山大安寺中等教育学校　３年　佐藤（さとう）　双葉（ふたば）

居座り続ける線状降水帯。猛烈な雨。荒れ狂う川のごう音。崩落し寸断された道路。大量の土砂が家をのみ込む。気象庁も「経験したことがない」という気象。報道で自然の破壊力になすすべもない現実を目の当たりにした今年の７月初旬の熊本豪雨。その光景から私は、あの６年前の出来事を思い出していた。

平成 26 年８月に起きた広島土砂災害。当時小学３年生だった私は、テレビを前にして、ただ愕然としていた。特に、土石流によってあらわになった山肌を見た時にはぞっとした。「あの緑あふれた山がこんな色になるのか。」と。私が今までに見たこともない、錆びた鉄のような赤味を帯びた色の山肌。その時の私は、自分が何をすれば良いのかなど考えてもいなかったが、ただあの山肌の色だけは、いつまでたっても忘れられなかった。

そうして１年がたった小学４年生の夏、私は土砂災害をテーマにした科学研究をしようと決めた。土砂災害の危険箇所を自分の目で見て回り、自分の住んでいる地区のハザードマップを作ろうと思ったのだ。父にも協力してもらい、インターネットで予め調べ、自転車でまず向かったのは、過去に土砂災害が起こった場所だった。インターネットで調べるまで知らなかったが、実は、私の住んでいる地区では、過去に数か所で土砂災害が発生している場所があったのだ。実際に足を運んでみると、何の変哲もない山あいに小さな丘のような場所があった。そこはきれいに整備されており、いくらか雑草が生えていた。山の上の方を見てみると、確かに崩れた様な跡が残っていたが、言われなければここが災害現場だとは信じられなかった。「ここに住んでいた人は、確かに『この家は大丈夫』と思ってしまったかもしれないな。」他の過去の災害現場を見ても同様だった。その後、まだ崩れたことがない崖を見て回ったが、過去の災害現場よりもむしろ、もっと危険な箇所の方が多いと感じた。そういった場所を自分の目で見て、メモを取り、さらに写真をたくさん撮って家に戻った。早速、模造紙に地区全体の地図を描き、続いて、大変危険な箇所を赤、危険な箇所を黄色で塗っていった。そうして出来上がったハザードマップは、かなりの場所が赤と黄色で埋め尽くされていた。私にはあまり驚きは無かった。なぜなら、お隣の広島県があれだけ被害に遭っているのだから、岡山県にも、私の住む地区にもこれくらいは危ない箇所があるのではないかと予想していたからだ。また、父と家の庭で、土石流の実験もした。どうしたら土砂災害による被害を減らせるのだろうか。それらの研究の内容をまとめて、小学４年生だった私が出した答えはこれだ。

「まず、ハザードマップを見る。自分がどれだけ危険な場所に住んでいるのかということを理解する。その上で、いつどこに避難するのが安全なのかを事前に家族で話し合って決めておく。そして、危険が迫れば、ためらわず速やかに行動する。」

私は、この科学研究を岡山市と岡山県の児童生徒科学研究発表会で発表する機会も頂いた。この経験で私が得たものは、計り知れない。

近年頻繁に日本列島を襲う自然災害。これまでの災害経験が通用しない時代だ。中学３年生になった私は、小学４年生時の科学研究をきっかけに、自然災害に常に関心を持って目を向けている。『知る』『備える』『行動する』この３つのステップの重要性を痛感している。『知る』について、私の住む岡山県は『岡山県防災マップ』や『おかやま防災ポータル』を確認し、土砂災害においては、『おかやま全県統合型 GIS』から土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域を見ることができるので、自分の地域の土砂災害の危険性を確認しておいてほしい。『備える』について、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、非常持出品に、マスク・消毒液・体温計を加えたい。そして、避難する場所は避難所だけではない。安全な親戚・知人宅やホテルや旅館も選択肢のひとつに入れて家族で話し合ってほしい。『行動する』について、空振りになってもよいくらいの気持ちで、危険が迫った時には、迷わず避難してほしい。

最後に、私がとても心に残っている標語を紹介したいと思う。

令和２年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部　最優秀賞
（国土交通大臣賞）

「災害時　隣近所で　助け合い」
これは、私が小学４年生時、過去の災害現場にあった看板に書かれてあった標語だ。「遠くの親戚より近くの他人」という言葉もある。地域のつながりを大切に、そして、自分の命と大切な人の命を守る為に、必要な時には、迷わず周りに助けを求めてほしい。求められた側も、快く出来るだけのことをしてあげたいものだ。決して迷わないで。迷ったその一瞬が、命の危険を左右するのだから。